EXCEL で始める　一番簡単な原価利益計算

First

Type－A

説明書

＜無料版＞

※本書は「無料版」のため、主機能に関する詳しい計算方法の説明は、ご覧になれません。
すべての内容がご覧いただけます説明書は、弊社 web サイトより、有料にてご購入いただけます。

MG's コンサルティング　－　商品のご購入

https://accounting-it.com/product-list-mon/product-month-pay#first

MG's コンサルティング https://accounting-it.com/

発行　2023 年 3 月 1 日

© 2017 MG's コンサルティング

製品概要

製品名称：First Type-A

製品バージョン：**M.2.0**

動作環境：Microsoft Excel（拡張子：xlsm）

本製品は、「実績原価計算」です。
実際に発生した費用から、製品一つ（1 個など）の原価と利益を算出するツールです。
「EXCEL で始める　一番簡単な原価損益計算」をキャッチフレーズに、「簡単に早く始めてみる」ことを重要視しています。
現在の自社の原価と利益が製品別、得意先別に把握できます。

■いったい、自社の製品は、幾らで出来ているのか？

■儲かっていない、赤字の製品、得意先は？

これらが明確になります。
本製品は、問題解決や QC ストーリーでいう「現状把握」と同じで、経営の現状把握を行うことです。
決算書、損益計算書の利益（合計値）では、会社の現状把握はできず、改善点や正しい経営意思決定は出来ません。

●購買、調達業務にも．．

本製品を購買、調達部品の価格査定に使用することで、材料費、外注加工費の削減に活用できます。
購買、調達先の情報を入手し、入力することで、現在の購入価格は適正価格なのか、購入先の価格査定を行い、値下げ交渉、価格交渉につなげます。

「Type-A」と「Type-B」の違い

本製品は「Type-A」ですが、「Type-B」との違いを記載します。
Type による大きな違いは、製品別原価計算を「生産実績」で行うのか、「売上実績」で行うかが異なります。
商社のように購入した物を加工せずに販売している会社や、個人事業のように販売数と生産数が殆ど変わらない（在庫しない）会社は、「売上実績」で原価計算を行う「Type-A」を使用します。
製造業などで、生産実績を記録し、且つ、原価計算期間の生産数と販売数に差がある場合は、「生産実績」で原価計算を行う「Type-B」を使用します。
「簡単に早く始める」を重視する場合は、「Type-A」を使用します。生産実績が必要無いため、「Type-A」の方が簡単に始めることができます。

© 2017 MG's コンサルティング

「First」による、改善までのステップ

以下の「1 個」は、自社の状況に合わせて、Kg や本、ℓ、m、束、セットなどに読み替えてください。

1．実際に発生した「加工費」を対象に、「製品別」に原価を集計し、製品 1 個の原価を算出します。

2．製品 1 個の原価から、製品 1 個の利益を算出し、製品毎の利益と得意先毎の利益を計算します。

3．計算結果から、儲かっている（又は、赤字）製品、儲かっている（又は、赤字）の得意先が分かります。

4．儲かっていない、赤字の得意先、製品を対象に、要因を調査します。

5．お客様への見積り方法の改善、IE（インダストリアル・エンジニアリング）、TPS などによる現場改善など、改善を実施します。

※本製品の範囲は 1～3 が対象です。4、5 は別の製品又は、web 等で情報提供を行います。

本製品の対象者

●中堅・中小企業の商社や小売業、製造業、個人事業の小売業や製造業など
●会社で購買、調達を担当されている方（購入価格の査定が必要な方）
●原価計算を勉強、習得したい、社会人、学生、アルバイトの方

ご注意

●当然ですが、本製品の購入、導入による、黒字や儲かるを保証しません。
（儲かるためには、戦略的な価格設定や設備投資の意思決定、適切な改善が必要です）

●同業者（原価に関する製品を販売する会社やコンサルタント）への、本製品の販売は行いません。

著作権

本製品の著作権は、「MG's コンサルティング」にあります。
本製品を無断で、販売、転売、流通、公開、本製品の改造品の販売など、一切の行為を固く禁止します。
また、本製品を使用してのコンサルティングも固く禁止します。

© 2017 MG's コンサルティング

－ 目 次 －

＜はじめに＞ ..... - 5 -
①VBA（マクロ）を有効にする ..... - 5 -
②使用している主な関数 ..... - 6 -
③印刷時のご注意 ..... - 6 -
④最大データ量（取扱い量） ..... - 6 -
⑤セルの背景色、合計行、シートの保護 ..... - 7 -
⑥［月間］利用パスワード ..... - 10 -

＜準備編＞ ..... - 11 -
■本製品に必要な情報一覧 ..... - 11 -
1. 製品一覧 ..... - 12 -
2. 得意先一覧 ..... - 13 -
3. 全社費用 ..... - 13 -
4. 経済減価償却 ..... - 14 -
5. 直接費 ..... - 17 -
6. 売上実績 ..... - 18 -

＜計算編＞ ..... - 19 -
■原価計算、利益の算出シート ..... - 19 -
7. 製品別原価計算 ..... - 20 -
①製品別原価計算と他のシートとの関係 ..... - 20 -
②製品への費用配賦（概要） ..... - 20 -
③製品別原価計算 ..... - 23 -
8. 損益計算実行 ..... - 28 -
9. 得意先・製品別損益 ..... - 29 -
10. 製品別損益 ..... - 32 -
11. 得意先別損益 ..... - 34 -

＜お問い合わせ＞ ..... - 35 -

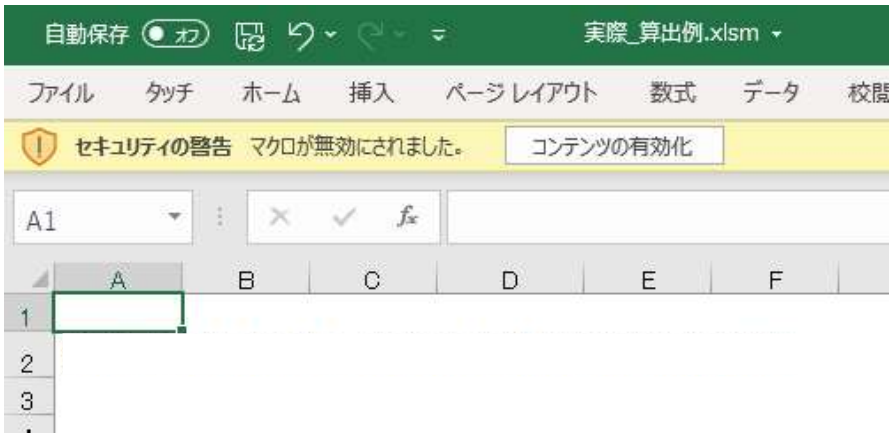
© 2017 MG's コンサルティング

＜はじめに＞

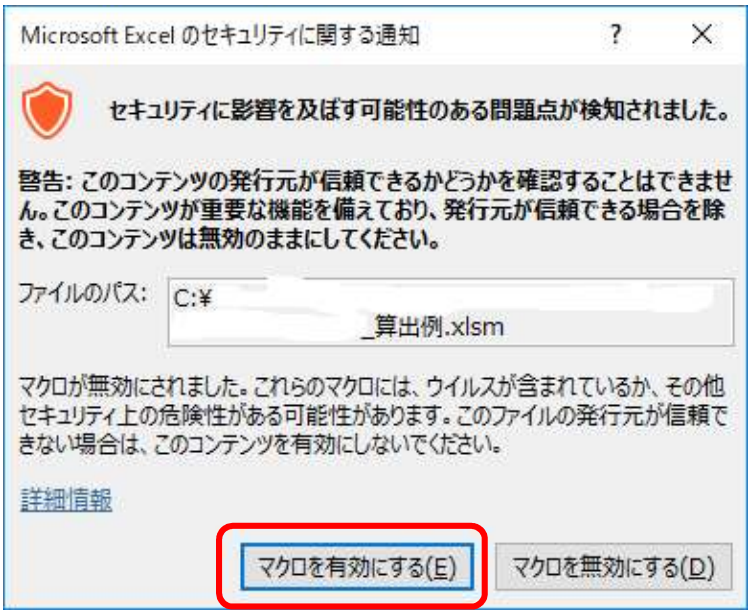
①VBA（マクロ）を有効にする

本製品は計算の一部に VBA（マクロ）を使用しています。
本製品を使用する時は「マクロを有効」にして使用ください。

下図のように、「セキュリティの警告」が表示されたら、「**コンテンツの有効化**」をクリックしてください。



下図の画面が表示された場合は、「**マクロを有効にする**」ボタンをクリックしてください。



※VBA（マクロ）を実行中、Excel のバージョンにより、「**画面が白くなり、ちらつく**」、「**応答なし**」が表示されることがありますが、正常です。

© 2017 MG's コンサルティング

②使用している主な関数

本製品の EXCEL ファイルでは、各シートのデータを「参照」する方法で、関数を使用して計算しています。

「参照」とは、EXCEL のセルに、「=A3」などと「=（イコール）」と「セル記号」を入力して、別のセルの値を文字通り、参照して使用することです。

●本製品で使用している主な関数は、以外の通りです。

IF

SUM、SUMIF

VLOOKUP

③印刷時のご注意

本製品の EXCEL ファイルでは、「最大行数」として、データ量に汎用性を持たせています。

従いまして、最大行数に達しない場合には、データの入力されていない「罫線のみの行」も出来てしまいます。

お手数ですが、印刷する際は、**印刷するページを指定（1～3 ページなど）して印刷**をお願いします。

④最大データ量（取扱い量）

本製品を使用して計算できる「最大データ量（上限）」を、下表に記載します。

この上限を超える計算はできませんので、予め、ご確認をお願いします。

種類	取扱い最大データ量（上限）
製品数・品番数	500 アイテム（500 品番）
得意先数	1000 社
原価費目数 （勘定科目数）	30 費目 （労務費、減価償却費、消耗品費などの費目数）
減価償却明細行	3000 台 ※設備の台数です。固定資産台帳の中で直接、生産に寄与する生産設備の数と概ね、等しくなります。
売上実績数	5000 行 ※得意先・製品毎の売上実績の実績数です。 100 品番を対象に、1 社に 1 品番のみを出荷している場合は、「100 行」になります。 100 品番を対象に、1 社に 2 品番を出荷している場合は、「200 行」になります。

※むやみに、行や列の追加、削除、またセルの移動は行わないでください。
正しく計算されない場合があります。

© 2017 MG's コンサルティング

⑤セルの背景色、合計行、シートの保護

■セルの背景色

本製品では、下表のとおり、「セルの背景色」に統一の意味を持たせてあります。

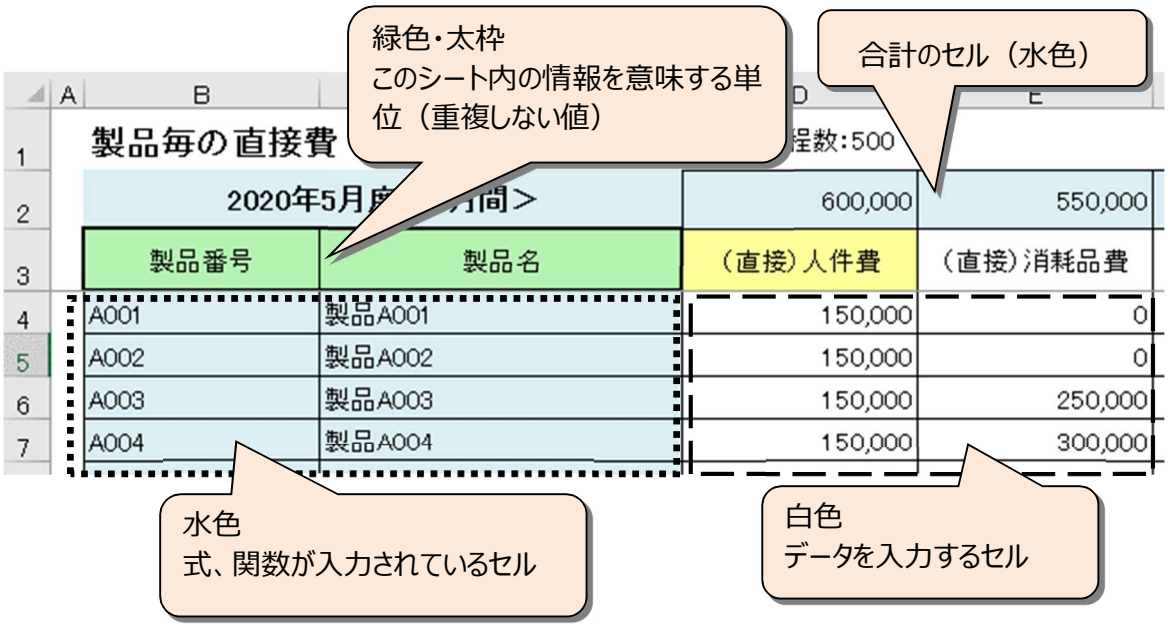
背景色	背景色の示す内容
薄黄色	表のデータ内容を表す見出し行です。
緑色 & 太枠囲線	シート内のデータを表す「単位」（KEY）で、そのシート内で重複しない値、データを意味しています。 （シート内で一意である情報、データこと） 例えば、製品別に表すデータの場合の「製品番号」です。 この「単位」毎に集計、計算をしていますので、これが崩れると、**正常に計算ができません**。
白色 色なし	データを入力や選択をするセルです。 また、コピーしたデータを貼り付けるセルです。
水色	計算結果が表示されるセルで、予め、式や関数が入力されています。 特別な事が無い限り、**セルの内容は変更しない**でください。**正しい計算ができません**。 白色のセルにデータを入力すると、水色のセルに計算結果が自動的に表示されます。
灰色	「～計算する」ボタンなど、ボタンをクリックして実行される VBA（マクロ）が、計算した結果を格納するセルです。 セルの書式設定にて、**セルの「ロック」は行わない**でください。

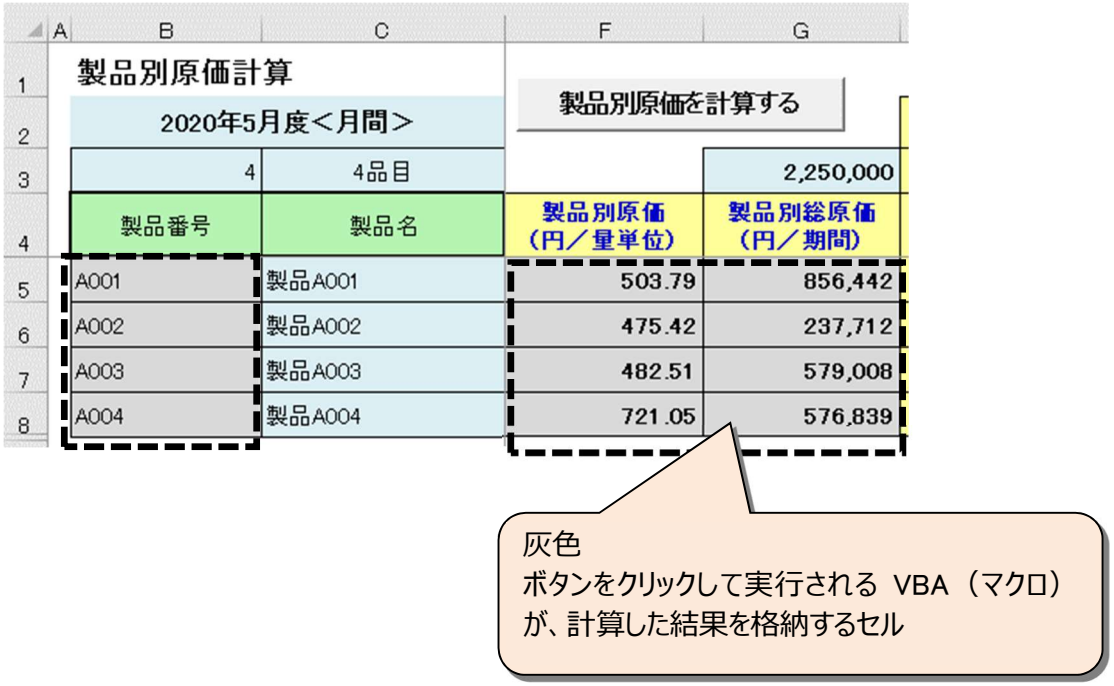
© 2017 MG's コンサルティング

■合計行

「合計」を表すセル（SUM）は、見出し行の上に配置しています。
データ量に汎用性（最大行数）を持たせていますので、印刷の時にデータの入力されていない（罫線のみの行）ページは印刷しないための処置です。

＜「セルの背景色」と「合計」の例＞

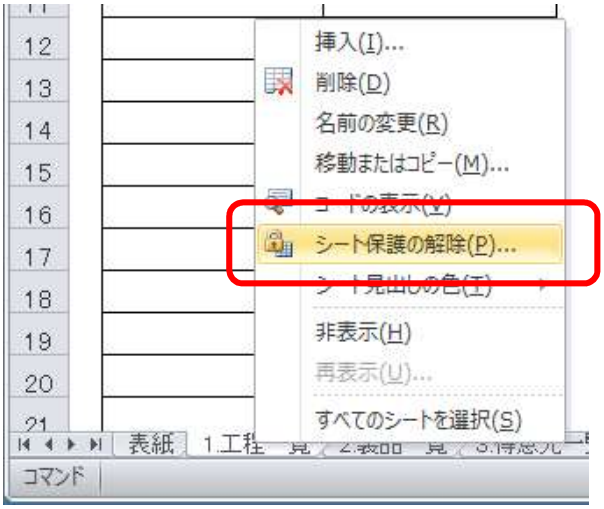




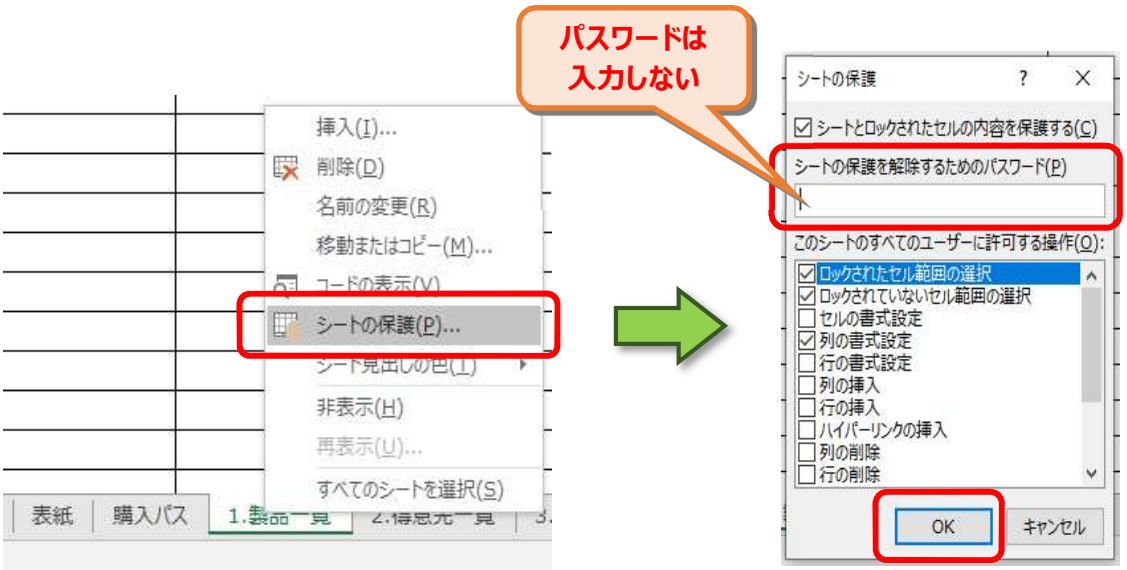
© 2017 MG's コンサルティング

■シートの保護

本 EXCEL ファイルは、「シートの保護」機能を使用しています。
式や関数を誤って変更、消去してしまうと、正しい計算が出来なくなるための防止策です。
保護していないセルは、背景色が「白色」のデータ入力が必要なセルです。
シートの保護を解除するには、シートの「見出し」（シート名の部分）を、マウスの右ボタンでクリックして、メニューから、「シート保護の解除」をクリックしてください。



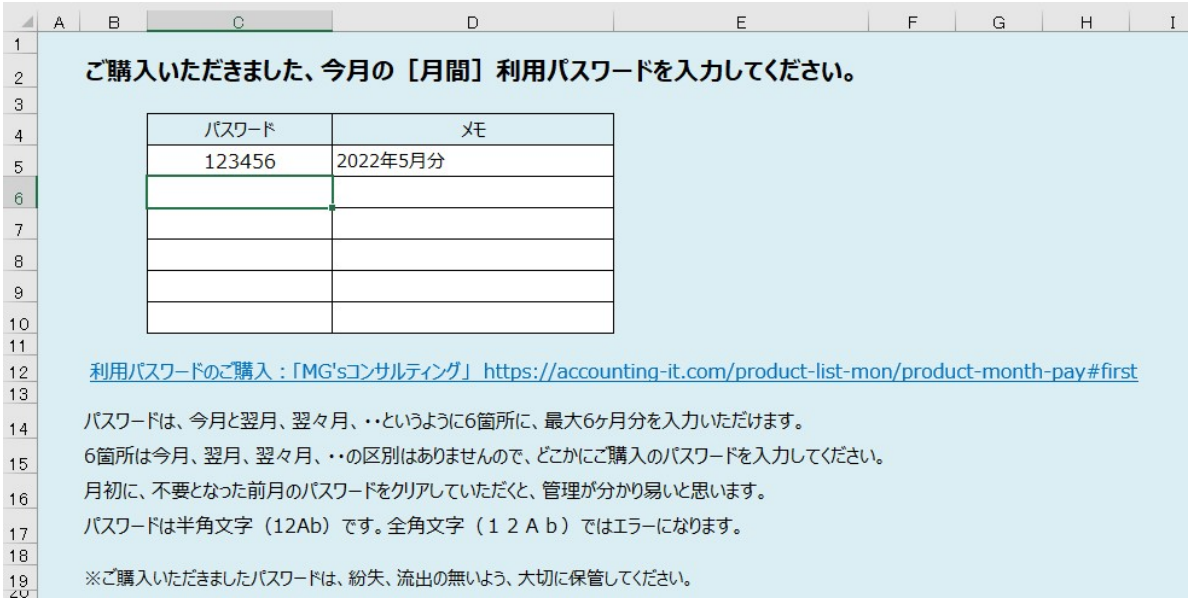
再び、シートを保護するには、シートの「見出し」（シート名の部分）を、マウスの右ボタンでクリックして、メニューから、「シートの保護」をクリックしてください。
右の「シートの保護」画面が表示されますので、**パスワードを入力せずに**、OK ボタンをクリックしてください。



© 2017 MG's コンサルティング

⑥［月間］利用パスワード

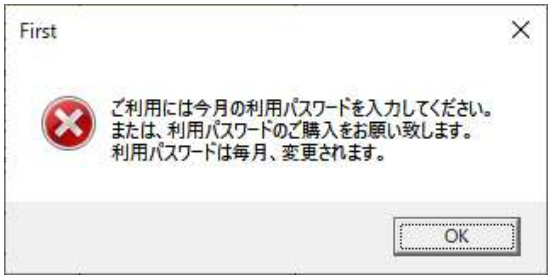
本製品を利用するためには、毎月の利用料金が必要です。
本製品の web サイト（MG's コンサルティング）から毎月、利用料金のお支払をお願いいたします。
https://accounting-it.com/product-list-mon/product-month-pay#first
利用料金をお支払いただきますと、利用パスワード（PDF）をダウンロードいただけます。
利用パスワード（PDF）は、本製品の「購入パス」シートの「パスワード」欄に入力してください。
入力後は「**上書き保存**」をお忘れなく。

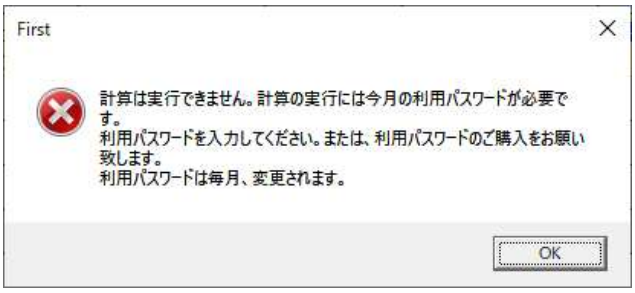


「メモ」欄は上図のように、自由にご使用いただけます。
「パスワード」欄に入力したパスワードが当月分の場合に、「※今月の利用パスワードです」が表示されます。（前月、翌月分には表示されません）

毎月の利用料金の対象は、**毎月 1 日～末日**です。例えば、9 月 29 日に 9 月分を購入された場合、**実質 2 日間のみの使用日数**となります。（お急ぎでなければ、10 月分のご購入をお勧めします）

「利用パスワード」が入力されていない状態で使用されますと、下記の**メッセージが表示**されます。
また、「～計算する」などのボタンをクリックしても、**計算が実行されません**。
尚、入力済のデータは、そのまま参照、ご使用になれます。





© 2017 MG's コンサルティング

＜準備編＞

本製品で原価を計算するためには、下表の情報が必要となります。
シート名と、そのシートに「入力する情報」を記載しました。
尚、入力が必須ではない情報、セルもありますので、適宜、省略していただいても構いません。

■本製品に必要な情報一覧

No.	シート名	シートへの入力内容（情報）
1	製品一覧	製品番号と製品名、その製品の材料費 製品名が未入力でも原価は計算できます。
2	得意先一覧	得意先番号と得意先名 個人への販売など、得意先別の損益が必要無い場合は未入力でも原価は計算できます。
3	全社費用	原価計算期間の貴社の費目毎の金額と、販売費及び一般管理費の金額（材料費は除く）
4	経済減価償却	経済耐用年数での減価償却費と、製品番号との関連付け このシートが未入力でも原価は計算できます。
5	直接費	製品毎に発生費用が特定できる費用（直接費） （ある製品でのみ発生した費用） このシートが未入力でも原価は計算できます。
6	売上実績	得意先番号、製品番号毎の売上単価と売上数量 売上日、得意先番号が未入力でも原価は計算できます。

※上表の各シートには、行間に「空白行」が出来ないように、上から詰めて入力してください。
途中に空白行があると、正しい計算ができません。

※シート名を変更しないでください。正しい計算ができません。

© 2017 MG's コンサルティング

1. 製品一覧

原価計算の対象となる、製品の量単位、製品番号と製品名、材料費を入力します。
この製品番号毎に原価と利益を算出します。
通常、生産を計画する単位や得意先に出荷、販売する製品の単位になります。

■「量単位」について
「量単位」とは、製品一つを表す量の単位で、個や本、Kg、m（メートル）、束などが該当します。
量単位（例では個）を入力すると、見出しに表記されている、（円／量単位）などの表記が、（円／個）などに表示が変り分かり易くなります。貴社の状況に合わせて「量単位」を入力してください。
但し、複数の単位が混在する環境には、対応しておりません。

製品別材料費は、一つの製品に含まれる材料の費用です。
100 円／個で購入した部品に、10 円／枚のラベルを貼って、販売している場合の材料費は、110 円／円となります。（ラベルを発注した際の版代をどうするのか？　弊社まで、お問い合せください）
150 円／3m のパイプ材を購入し、1m に切断後、加工して販売している場合の材料費は、50 円となります。

汎用配賦値は、「7.製品別原価」シートで使用します。全社費用を各製品に配賦（配分）する際の基準値になります。
製品の特長などから、加工時間や製品重量、製品の面積などを入力します。加工の際に掛かる費用の発生に比例する値を入力します。例えば、加工時間（例：300 秒）が長いほど費用が掛かる場合は「加工時間」を、製品重量（例：300g）が重いほど費用が掛かる場合は「製品重量」を入力します。
自社の状況、製品の特長などから、各社にて汎用的に使用できる配賦基準の値です。
汎用配賦値に何を採用し入力したのかが分かるように、セル E4 にメモとして入力（例：加工時間）します。
費用配賦の詳しい説明は、「7.製品別原価」シートの項目で行います。
汎用配賦値を使用しない場合は、空欄にします。

＜入力例＞

	A	B	C	D	E
1		製品一覧	最大品番数: 500		
2					
3			自社製品の量単位	個	汎用配賦値
4		製品番号	製品名	製品別材料費（円／個）	加工時間(秒／個)
5		A001	製品A001	300.00	100.0
6		A002	製品A002	400.00	200.0
7		A003	製品A003	350.00	300.0
8		A004	製品A004	250.00	100.0
9					

© 2017 MG's コンサルティング

2. 得意先一覧

得意先毎の利益を算出し、分析するために必要になります。
販売先が特定の企業のお得意様ではなく、個人への販売など、販売先毎の利益を把握する必要が無い場合は、入力する必要はありません。
入力例のように、得意先の得意先番号と得意先名を準備します。

＜入力例＞

	A	B	C
1		得意先一覧	最大得意先数: 1000
2			
3		得意先番号	得意先名
4		A	株式会社AAA
5		B	BBB株式会社
6		C	有限会社CCC
7			

3. 全社費用

先ずは、原価を計算する期間となる「**原価計算期間**」を決定します。
「期間」は、年間、半年間、四半期、月間、週間のいつでも構いません。
その期間に発生した費用と売上から、原価と利益を算出します。
まずは、「月間」で計算してみては、いかがでしょうか。
ここで入力する「原価計算期間」はメモです。他のシートに表示されます。

上で決めた、原価計算期間に発生した、人件費と労務費、販売費及び一般管理費を準備、入力します。
（材料費、購入品費、外注加工費は、対象外ですので、入力しないでください）

減価償却費と人件費は、入力するセルが予め、決まっています。

「減価償却費」は原価計算期間に発生した減価償却費の合計を入力してください。
減価償却費は、後で出てくる「4.経済減価償却」シートに入力する、**（直接）減価償却費も含んだ合計金額を入力**してください。
（間接）減価償却費を算出するために、すべての減価償却費の合計を入力します。

「人件費」は、人件費の合計額で、内訳（賞与・退職金など）は必要ありません。
人件費は、後で出てくる「5.直接費」シートに入力する、**（直接）人件費を含んだ合計金額を入力**してください。（間接）人件費を算出するために全員分の人件費を入力します。

© 2017 MG's コンサルティング

他の経費「費目」は、下図例のように、原価計算期間の発生費用を分類して入力ください。
但し、後で出てくる「5.直接費」シートに入力した**費用（直接費）は除いて入力**してください。
（修繕費の 4,500,000 円には、直接費の 630,000 円が含まれないように入力してください）

「販売費及び一般管理費」（42 行目）は、普段から前項までの科目を製造原価として管理、計算している場合に、製造原価とは別に、その金額を入力します。製造原価と分けていない場合は、前項までの科目に含まれていると思いますので、空白、0 円にします。

＜入力例＞

全社費用　　最大費目数: 30

原価計算期間: 2020年5月度 ＜月間＞

	原価費目（勘定科目）	金額(円)	構成比	経済金額(円)
6	減価償却費	1,000,000	44.4%	450,000
7	人件費	600,000	26.7%	
8	補助材料費	120,000	5.3%	
9	消耗工具費	50,000	2.2%	
10	電力料	40,000	1.8%	
11	運賃	70,000	3.1%	
12	租税公課	60,000	2.7%	
13	(間接)消耗品費	10,000	0.4%	
14	賃借料	150,000	6.7%	
15	保険料	90,000	4.0%	
16	雑費	60,000	2.7%	
17			0.0%	
36			0.0%	
37			0.0%	
38	計	2,250,000	100.0%	1,700,000
39	直接経費(*1)　計	550,000		550,000
40	総合計	2,800,000		2,250,000
42	販売費及び一般管理費	500,000		

*1 (直接)人件費以外の経費

© 2017 MG's コンサルティング

4. 経済減価償却

このシートでは、高額な資産や設備の減価償却費について、以下の 2 つの目的のために管理、入力します。

①減価償却費を自社の実態に合った金額に計算し直す。（法定耐用年数 → 経済耐用年数）
詳細は、後述の「耐用年数について」をご覧ください。

②ある製品の生産に特化した設備を指定する。（（直接）減価償却費として原価計算する）

このシートの入力を省略しても原価は計算できます。先ずは、簡単に早く原価と利益を計算してみたい場合は、読み飛ばして構いません。後からでも原価と利益を再計算（何度でも）できます。

先ずは、自社にある、ある程度、高額な資産（建物は除く）や設備を洗い出して、「資産管理番号」と「資産名」「（法定）減価償却費」「設備取得金額」を入力します。（資産管理番号は省略可）
（法定）減価償却費は、原価計算期間の費用を入力します。1 ヶ月分で原価計算を行う場合は、今ある（法定）減価償却費を 12 ヶ月で割って 1 ヶ月分として入力する必要があるかもしれません。

①減価償却費を自社の実態に合った金額に計算し直す。
今ある（法定）減価償却費を、自社の実態に合う耐用年数で算出し直すために、「経済耐用年数」を入力します。
その設備は何年程度、使用できそうか、次回買い替えるのは何年後かを想定して、設備の寿命となる年数を入力します。（経済）減価償却費が計算されます。
（法定）減価償却費のままで良い場合は、Delete キーを押してセルを空白にします。

②ある製品の生産に特化した設備を指定する。
洗い出した設備が、ある製品を生産するための専用設備の場合は、「設備を使用する製品番号」に、「1.製品一覧」に入力した製品番号を入力します。
これにより、原価の精度が向上します。製品番号を入力した減価償却費は、その製品の原価にのみ算入されます。反対に製品番号を入力していない共有の資産（建物など）や設備の減価償却費は、すべての製品の原価に算入（配賦）されます。（詳細は「7.製品別原価」で説明）

© 2017 MG's コンサルティング

※耐用年数について

一般的な耐用年数に「法定耐用年数」がありますが、これは税法にて税金を算出するために設定された年数です。

法定耐用年数は、企業が現場で使用している年数よりも、相当、短く会社の実態に合っていません。

実際の企業では、法定耐用年数は 10 年でも、20 年間使用している設備も多くあります。

高額な設備を清掃し TPM などの活動で少しでも長く使用する（使い倒す）ことが、企業の競争力の一つでもあります。

財務会計ソフトや損益計算書の「減価償却費」は、この法定耐用年数が使われています。

そのため、財務会計ソフトや損益計算書の利益は、**自社の現状、実態を表していません。**

本サイト、本ツールでは、「**経済耐用年数**」の設定を強くお勧めします。

経済耐用年数により、**貴社の現状、実態を表した利益が算出**できます。

●経済耐用年数

経済耐用年数は「実力値」として、その設備での生産を止めるまで（廃却など）の実際に使用している（使用するであろう）年数を言います。（多くは、法定耐用年数より、長い年数になります）

＜入力例＞

	A	B	C	D	E	F	G	H
1		［経済］減価償却費の算出		最大明細数:	3000			
2		2020年5月度 ＜月間＞	合計	1,100,000	11,000,000		550,000	
3		固定資産管理番号	設備名	減価償却費（法定耐用年数）	設備取得金額（円）	経済耐用年数（年）	減価償却費（経済耐用年数）	設備を使用する製品番号
4		1001	A001 専用 梱包機	800,000	8,000,000	20	400,000	A001
5		1002	全製品共用 ラベル貼付機	300,000	3,000,000	20	150,000	
6								

© 2017 MG's コンサルティング

5. 直接費

ある製品の生産にのみ掛かった費用がある場合に、その費用と製品の関連付けを行います。
例えば、製品 A の生産だけを行っている作業者の人件費や、製品 B を生産するためだけに必要な工具（消耗工具費）などです。

このようなデータが無い会社もあります。このシートの入力を省略しても原価は計算できます。先ずは、簡単に早く原価と利益を計算してみたい場合は、読み飛ばして構いません。後からでも、原価と利益を再計算（何度でも）できます。

予め、「1.製品一覧」に入力した製品が表示されていますので、該当する費用がある場合は、費目名（3 行目）を入力後、製品毎に掛かった費用の金額を入力します。
人件費の入力箇所は固定（D 列）です。該当する人員がいない場合は、入力する必要はありません。

これにより、原価の精度が向上します。製品番号に入力した費用は、その製品の原価にのみ算入されます。
反対に、製品番号に入力していない共通の費用（賃貸料や保険料、雑費など）は、すべての製品の原価に算入（配賦）されます。（詳細は「7.製品別原価」で説明）

ここでは、ある製品でのみ発生した費用を入力しますが、これを「直接費」と称します。
また、すべての製品に共通して掛かる費用を「間接費」と言います。

この箇所は無料版のため、ご覧になれません。

＜入力例＞

	A	B	C	D	E	F	G
1		製品毎の直接費		最大工程数:500			
2				600,000	550,000	0	0
3		2020年5月度 ＜月間＞		（直接）人件費	（直接）消耗工具費		
4		製品番号	製品名	（円／期間）	（円／期間）	（円／期間）	（円／期間）
5		A001	製品A001	150,000	0		
6		A002	製品A002	150,000	0		
7		A003	製品A003	150,000	250,000		
8		A004	製品A004	150,000	300,000		
9							

© 2017 MG's コンサルティング

6. 売上実績

「どの得意先に、何の製品を、どれだけ（何個）、幾らで販売したのか」の売上実績データです。

決めた原価計算期間の売上データで、売上の都度、記録した売上データでも構いませんし、原価計算期間（例えば、5 月分）として合計した集計データでも構いません。とにかく、原価計算期間の全ての売上データを得意先、製品毎に入力します。

製品番号は、「1.製品一覧」に入力した製品番号と一致する番号を、必ず、入力してください。

販売先が特定の企業のお得意様ではなく、個人への販売など、販売先毎の利益を把握する必要が無い場合は、「得意先番号」の入力は必要ありません。（「２.得意先一覧」に入力していない場合など）
この場合は、得意先番号が空欄の製品毎の売上データを入力します。

「売上日　売上期間」B 列はメモです。その売上データが何日のデータか、又は、何か月分（例えば 2022/5）を集計したデータなのか、後から見ても分かるようにするための記録です。よって、省略しても原価計算に影響はありません。

※このシートは、行間に「空白行」が出来ないように、上に詰めて入力してください。
途中に空白行があると、正しい計算ができません。

＜入力例＞

	A	B	C	D	E	F	G
1		売上実績		最大実績行数：5000			
2		2020年5月度＜月間＞			合計	4,200	4,181,000
3		売上日 売上期間	得意先番号	製品番号	売上単価 （円／個）	売上数量 （個／期間）	売上額 （円／期間）
4		2022/05/01	A	A001	1,000.00	1,300	1,300,000
5		2022/05/02	A	A002	940.00	500	470,000
6		2022/05/03	B	A003	1,000.00	1,200	1,200,000
7		2022/05/04	B	A004	1,050.00	800	840,000
8		2022/05/05	C	A001	870.00	300	261,000
9		2022/05/06	A	A001	1,100.00	100	110,000
10							0

© 2017 MG's コンサルティング

＜計算編＞

ここからは、本製品での原価計算の方法、利益の算出方法を説明します。
計算は下表の順序で行われています。

■原価計算、利益の算出シート

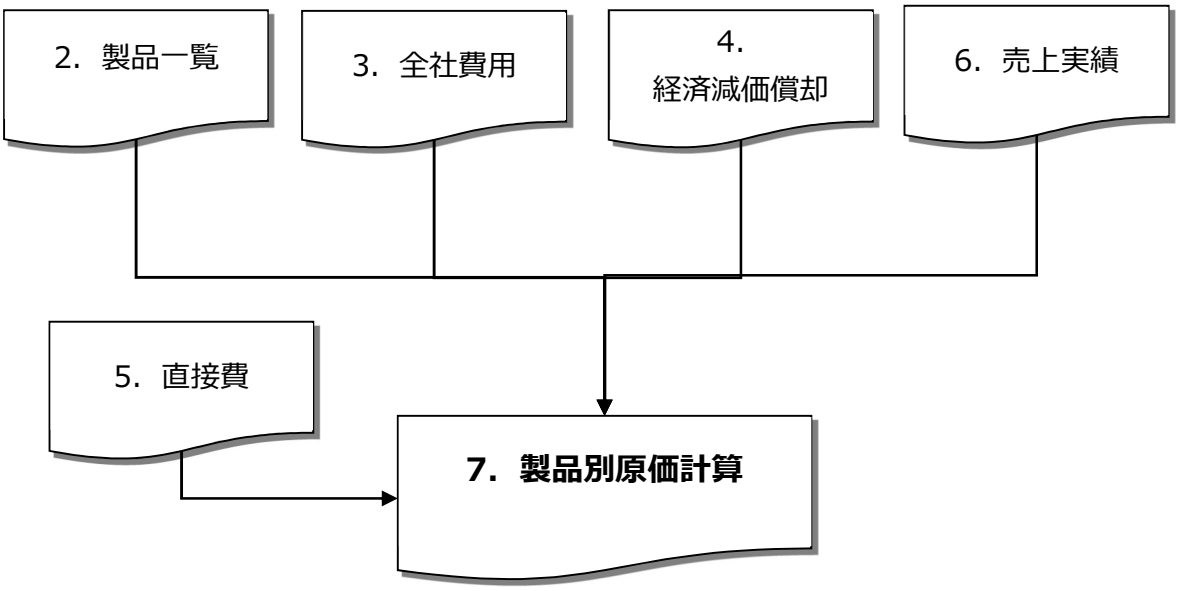
No.	シート名	シートの概要
7	製品別原価	全社費用や直接費を製品別に割り振る（配賦）ことで製品毎の原価を算出します。
8	損益計算実行	前項の製品別原価を基に、得意先、製品別の原価と損益を計算します。
9	得意先・製品別損益	製品の売上単価から、前項の製品別原価と材料費、販売費を差し引いて、利益を算出します。
10	製品別損益	貴社で生産、販売している製品の損益を算出します。
11	得意先別損益	貴社が販売している得意先の損益を算出します。

© 2017 MG's コンサルティング

7. 製品別原価計算

①製品別原価計算と他のシートとの関係

下図に、「製品別原価計算」と他のシートとの関係を表します。
情報の流れは、矢印（→）の通りですが、実際の計算は、「7. 製品別原価計算」シートが他のシートのセルを「参照」する形で出来ています。



②製品への費用配賦（概要）

この製品別原価計算が本製品のメイン、心臓部となります。
会社全体で掛かった「3.全社費用」を、各製品に配分（配賦）することで、製品一つあたりの原価を計算します。原価は「製品別原価を計算する」ボタンをクリックするだけで、計算は自動で行います。
これにより、製品一つあたりの利益が計算でき、儲かっている製品や赤字の製品、儲かっていない得意先が分かるようになり、戦略的な経営が可能になります。

それでは、各製品に費用を配賦するイメージを、下図に示します。
例えば、ある会社で「2 つの製品を販売していて、原価計算期間に「消耗工具費が 50,000 円」掛かった場合、2 つの製品に消耗工具費をどのように配分（配賦）するのか、その方法を説明します。

尚、各費用を製品に配賦する計算方法を「配賦基準」と言います。
例えば、売上数が多い製品の方が、多くの消耗工具費が掛かっているとして、「売上数」の比率で配賦します。（配賦基準に「売上数」を設定します）

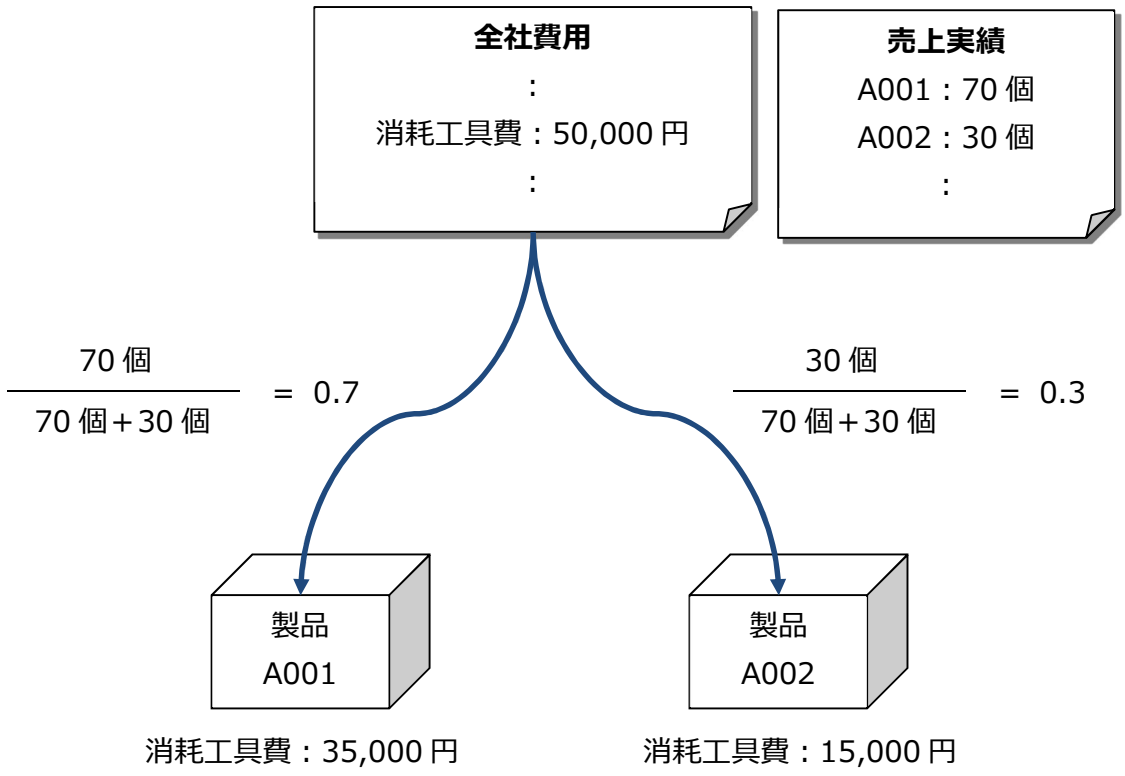
© 2017 MG's コンサルティング

以下の例は、全社損益の消耗工具費を、2 つの製品（A001、A002）に配賦するイメージとなります。配賦基準は「売上数」の場合です。
（数量の単位（個）は、自社に合わせて Kg や本、ℓ、m、束、セットなどと、読み替えてください）

［配賦の算出例］

A001 の消耗工具費　35,000 円　＝　［全社費用］消耗工具費 50,000 円　×　0.7

A002 の消耗工具費　15,000 円　＝　［全社費用］消耗工具費 50,000 円　×　0.3



© 2017 MG's コンサルティング

■「配賦基準」一覧

本製品で実装している「配賦基準」を一覧表で示します。

配賦基準は、費目毎に設定しますので、自社の費用の発生状況に近い基準を選択します。

配賦基準	配賦基準の説明
売上数	製品毎の「売上数」で各製品に配賦します。 売上数に比例して費用が掛かる費目の場合に選択します。 例：消耗品費（売上数（生産数）に応じて消耗品が掛かる）
汎用配賦値	製品毎の「汎用配賦値×売上数」の割合で各製品に配賦します。 汎用配賦値と売上数に比例して費用が掛かる費目の場合に選択します。 例：補助材料費、電力料 （汎用配賦値×売上数（生産数）に応じて費用が掛かる費目）
減価償却費	製品毎の「減価償却費」の金額で各製品に配賦します。 減価償却費＝設備の価格が高い程、費用が多く掛かる費目の場合に選択します。 この箇所は無料版のため、ご覧になれません。 例：租税公課（固定資産税など）、保険料（火災保険料など）
均等配賦	各製品に費用を均等に配賦します。各製品に同一金額を配賦します。 （費目合計金額÷製品数） 例：雑費など
直接費	（直接）減価償却費、（直接）人件費、他３つの直接費の場合に、費用の配賦ではなく、その製品で発生した減価償却費、人件費、他の直接費をそのまま使用します。（詳細は後述） この基準は位置が固定で、選択できません。 固定：（直接）減価償却費、（直接）人件費、３つの直接費

© 2017 MG's コンサルティング

③製品別原価計算

製品別原価計算は、マクロが自動的に計算します。
操作は、4 行目の**配賦基準（背景色が白色）を費目毎に選択**後、「製品別原価を計算する」ボタンをクリックするだけで、原価計算が行われます。

背景色が「水色」のセルは、参照や関数の式が入力されていますので、自動的に計算されます。
（セルの内容は、変更できません）
背景色が「灰色」のセルは、「製品別原価を計算する」ボタンをクリックすると、マクロが計算結果のデータをセットします。

※前項までに説明した、シート名の番号が 1～6 のシートの**データを変更した場合は、必ず、「製品別原価を計算する」ボタンをクリック**して、原価を計算し直してください。
このボタンを何回でもクリックして、原価を計算しても問題ありません。

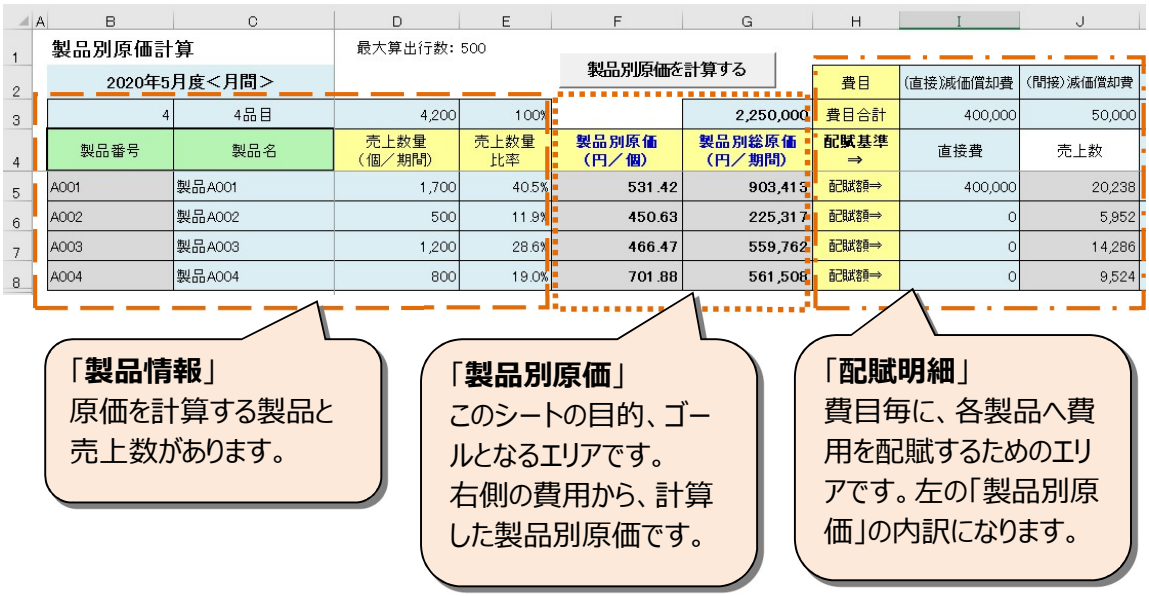
※「製品別原価を計算する」ボタンをクリック後、「**応答なし**」が表示される場合がありますが、計算を実行していますので正常です。尚、最大件数を処理する計算時間は、約 30 秒です。

■原価計算後の行と列について

この「7.製品別原価」シートは、最大で 500 行、列は AU 列まで、計算の対象範囲としています。
「製品別原価を計算する」ボタンをクリックして計算すると、データがセットされていない、計算対象外の行と列は、自動的に「非表示」となります。
※むやみに、行や列の追加、削除を行わないでください。正しく計算されない場合があります。

■シートの構造

先ずは、下図にシートの全体像と 3 つのエリアを示します。



© 2017 MG's コンサルティング

■**製品情報**

●製品番号

「6. 売上実績」シートの情報から、「製品別原価を計算する」ボタンをクリックすることで、製品番号を集計しています。

●売上数量・売上数量比率

「6. 売上実績」シートを参照し、製品番号毎の売上数量の合計を算出（SUMIF 関数）しています。

尚、この比率は、配賦基準に「売上数」が選択された場合に、その費目の費用の配賦に使用しています。

●汎用配賦値×売上数量・汎用配賦値比率

「1. 製品一覧」シートの「汎用配賦値」と売上数量を掛けて算出しています。

尚、この比率は、配賦基準に「汎用配賦値」が選択された場合に、その費目の費用の配賦に使用しています。

■**製品別原価**

このシートの目的、ゴールとなる原価で、原価計算期間で発生した製品毎の原価です。

F 列が製品一つを生産するのに掛かった費用、原価です。

■**配賦明細**

費目毎に、各製品へ費用を配賦するために計算しています。「製品別原価」の内訳（費目別の費用）です。

●費目（2 行目）

「3.全社費用」シートの「原価費目」の内容と、「5.直接費」シートの 3 行目に入力した直接費の費目名を、そのまま参照しています。

●費目合計（3 行目）

各費目の全社合計金額として、間接費の場合は、「3.全社費用」シートの「金額」の値を、参照しています。（各工程に配賦する対象の金額）

© 2017 MG's コンサルティング

●配賦基準（4 行目）

費目毎に配賦基準を選択してください。（背景色が白色のセルは入力、選択エリアです）
選択できる配賦基準は「売上数」「汎用配賦値」「減価償却費」「均等配賦」です。
自社、製品の実状に近い基準を選択してください。

配賦基準が「直接費」の（直接）減価償却費と（直接）人件費、他 3 つの経費の場合は、選択できません。
「直接費」の列の費用は、「4.経済減価償却」と「5.直接費」に入力した費用が、そのまま設定、転記されています。

配賦基準を選択していない、空白の状態にするには、キーボードの「DEL」キーを押してください。

●配賦額（5～500 行目）

配賦基準が「直接費」以外の費用は、「3.全社費用」シートの費目毎の金額を、配賦基準によって、各製品に配賦する金額（配賦額）を算出しています。
「製品別原価を計算する」ボタンをクリックすることで、自動で計算されます。

［配賦額の算出方法］

配賦基準	計算式（参照のセル）
売上数	各製品の費用＝費目合計 × 売上数量比率（E 列）
汎用配賦値	各製品の費用＝費目合計 × 汎用配賦値比率（G 列）
減価償却費	各製品の費用＝費目合計 × 減価償却費率（*1）
均等配賦	各製品の費用＝費目合計 ÷ 製品数

この箇所は無料版のため、ご覧になれません。

*1 減価償却費率 ＝ ［製品毎］減価償却費（K 列 ＋ L 列）
÷ ［全体］減価償却費（K3 セル ＋ L3 セル）

© 2017 MG's コンサルティング

＜減価償却費の算出について＞

減価償却費は「直接費」と「間接費」に分けて、計算しています。

「3.全社費用」の減価償却費の中に、ある製品にのみ掛かる減価償却費が含まれている場合は「直接費」として、（直接）減価償却費にセットします。

（直接）減価償却費は、「4.経済減価償却」シートに入力した内容で、減価償却費と製品が製品番号で関連付けされています。製品番号が入力された減価償却費が、（直接）減価償却費として、そのままその製品にセットされます。

（間接）減価償却費は、［3.全社費用］の減価償却費から、前項の（直接）減価償却費（法定耐用年数で算出した）を差し引いた分となります。

（間接）減価償却費は、各製品で共通に使用されている資産、減価償却費として、各製品で費用を負担するという意味で、全製品に配賦します。

この箇所は無料版のため、ご覧になれません。

［3.全社費用］減価償却費　（例）950,000 円

（**直接**）減価償却費

A001 専用　梱包機
400,000 円
「4.経済減価償却」シート

（**間接**）減価償却費

建物、リフト　など
550,000 円

［間接］減価償却費 550,000 円 ＝ 950,000 円 － 400,000 円

［間接］減価償却費は、全製品で費用を負担するため、配賦する

© 2017 MG's コンサルティング

＜人件費の算出について＞

人件費も「直接費」と「間接費」に分けて、計算しています。

「3.全社費用」の人件費には、会社全体の人件費を入力します。
しかし、ある製品の生産にのみ配置した人員がいる場合は、「直接費」として各製品に配賦せずに、当該製品にのみ、その人員の人件費が掛かるように原価を計算します。
他方、概ね、全製品の生産に関与している人員の人件費は、「間接費」として、各製品に配賦します。

（直接）人件費は「5.直接費」シートに入力した値が、そのまま、各製品にセットされます。

（間接）人件費は、［3.全社費用］の人件費から、（直接）人件費の合計を差し引いた分を（間接）人件費として各製品に配賦します。

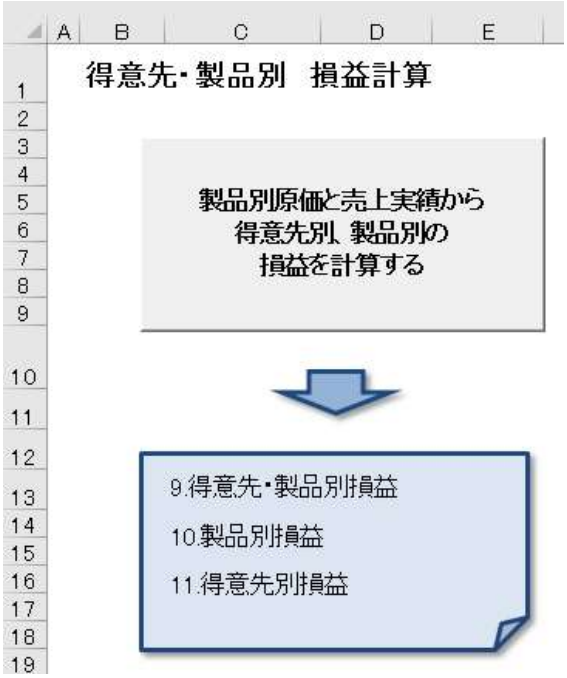
© 2017 MG's コンサルティング

8. 損益計算実行

前項の製品別原価を基に、得意先、製品別に利益（損益）を計算します。
「製品別原価と売上実績から得意先別、製品別の損益を計算する」ボタンをクリックすると、
「9.得意先・製品別損益」、「10.製品別損益、「11.得意先別損益」の各シートが自動的に計算されます。
（得意先のデータ入力を省略した場合は、得意先の損益は計算されません）

※前項までに説明した、シート名の番号が 1～7 のシートの**データを変更した場合は、必ず、**
本シートのボタンをクリックして、利益を計算し直してください。
このボタンを何回でもクリックして、利益を計算しても問題ありません。

※「～損益を計算する」ボタンをクリック後、「**応答なし**」が表示される場合がありますが、計算を実行していますので正常です。尚、最大件数を処理するのに掛かる計算時間は、約 3 分です。



© 2017 MG's コンサルティング

9. 得意先・製品別損益

得意先・製品別の損益です。

このシートは、「8.利益計算実行」シートにあるボタンをクリックすると、自動的に計算されます。

（得意先の情報を省略した場合は、得意先の利益は計算されません）

本シートは、少し横に長いので、分割して説明します。

■一単位あたりの利益

製品一単位（1 個など）の利益を、得意先、製品別に算出しています。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1		得意先・製品別損益			最大行数: 5000					
2		2022年5月度＜月間＞								合計
3		得意先番号	製品番号	製品別材料費（円／個）	製品別原価（円／個）	販売費（円／個）	売上原価（円／個）	平均売上単価（円／個）	利益（円／個）	利益率（%）
4		A	A001	300.00	512.01	108.70	920.70	1,050.00	129.30	12.3%
5		A	A002	400.00	596.50	108.70	1,105.20	1,000.00	-105.20	-10.5%
6		B	A003	350.00	607.42	108.70	1,066.11	1,100.00	33.89	3.1%
7		B	A004	250.00	809.54	108.70	1,168.24	1,150.00	-18.24	-1.6%
8		C	A001	300.00	512.01	108.70	920.70	890.00	-30.70	-3.4%

「得意先番号」「製品番号」は、「6.売上実績」のデータから集計しています。

（背景色が「灰色」は、マクロが計算結果をセットしているセルです）

「製品別材料費」は、「1.製品一覧」に入力した材料費がセットされています。

「製品別原価」は、「7.製品別原価」で計算した原価を参照（VLOOKUP 関数）し、セットしています。

「販売費」は、「3. 全社費用」シートの「販売費及び一般管理費」です。

「販売費及び一般管理費」を、会社の売上数量の合計で割って算出（製品別の一単位あたりの「販売費」）していますので、得意先、製品の区別なく同じ金額になります。

但し、例えば、ある製品だけ、出荷の運送費が飛び抜けて高く、他の製品との差が大きい場合などは、その分の費用を「販売費及び一般管理費」から抜き出して、「5.直接費」に入力し、製品番号との紐づけを行なうことで、その製品にのみ費用が算入されます。

「売上原価」は、「製品別材料費」「製品別原価」「販売費」を足した値で、その製品に掛かった費用の合計になります。

「平均売上単価」は、「6.売上実績」に入力した売上単価で、この後説明する「売上額」÷「売上数量」で計算しています。（売上実績の中で、複数の売上単価（単価変更など）が存在する場合があるため、平均となります）

「利益」は、製品一単位当たり（1 個など）の利益です。「売上額」－「売上原価」となります。

計算上は、「利益額」÷「売上数量」で計算しています。

© 2017 MG's コンサルティング

「利益率」は、売上に対する利益の率で、「利益額」÷「売上額」×100 で計算しています。
この利益率が、取引の初めにお客様に提示した、見積書の利益率より少ない場合は、会社のどこかに、「ムリ・ムダ・ムラ」が発生しており、対策（改善や投資）が必要です。

■利益金額

	A	B	C	K	L	M	N	O
1		得意先・製品別損益						
2		2022年5月度＜月間＞		4,600	4,817,000	4,700,000	117,000	2.4%
3		得意先番号	製品番号	売上数量（個）	売上額（円）	売上原価（円）	利益額（円）	利益率（%）
4		A	A001	1,300	1,365,000	1,196,915	168,085	12.3%
5		A	A002	500	500,000	552,598	−52,598	−10.5%
6		B	A003	1,200	1,320,000	1,279,334	40,666	3.1%
7		B	A004	800	920,000	934,590	−14,590	−1.6%
8		C	A001	800	712,000	736,563	−24,563	−3.4%

「売上数量」「売上額」は、「6.売上実績」のデータから集計しています。

「売上原価」は、「売上原価」（G 列）×「売上数量」で算出しています。

「利益額」は、「売上額」－「売上原価」、「利益率」は、「利益額」÷「売上額」×100 で、その得意先に、その製品を販売した事による、利益額と利益率です。
2 行目が原価計算期間の貴社の利益額（N2）と利益率（O2）の合計になります。

■計算後の行数について

この「9.得意先・製品別損益」シートは、最大で 5000 行まで、計算の対象範囲としています。
「8.損益計算実行」のボタンをクリックして計算すると、データがセットされていない、計算対象外の行は、自動的に「非表示」となります。
※むやみに、行の追加や削除を行わないでください。正しく計算されない場合があります。

© 2017 MG's コンサルティング

■利益の内訳、明細の重要性

財務会計ソフトで計算された営業利益（損益計算書の営業利益）は、会社の合計利益しか分かりません。（算出例の場合：117,000 円,　2.4%）

その営業利益だけ見ていたのでは、「とりあえず、黒字だから」、「儲かったな」で終わってしまいます。
会社のどこを、何を変えれば良いのか、全く分かりませんし、その考えにも至らないでしょう。

実は、ある製品、ある得意先が**大赤字**で、何時、会社全体の利益が**赤字**になっても不思議ではない状態かもしれません。

算出例の場合でも、次項以降で明確になりますが、財務会計ソフト、損益計算書では全く想像も付かない内情になっています。

財務会計ソフト、損益計算書では、経営分析は出来ません。
また、減価償却費を法定耐用年数で計算していては、尚更、間違った経営計画、アクションになってしまいます。

© 2017 MG's コンサルティング

10. 製品別損益

製品別の損益を計算します。
このシートも、「8.利益計算実行」シートにあるボタンをクリックすると、自動的に計算されます。

本シートは、少し横に長いので、分割して説明します。

■一単位あたりの利益

製品一単位（1 個など）の利益を、製品別に算出しています。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1		製品別損益			最大行数: 500					
2		2022年5月度＜月間＞								合計
3		製品番号	製品名	製品別材料費（円／個）	製品別原価（円／個）	販売費（円／個）	売上原価（円／個）	平均売上単価（円／個）	利益（円／個）	利益率（%）
4		A001	製品A001	300.00	512.01	108.70	920.70	989.05	68.34	6.9%
5		A002	製品A002	400.00	596.50	108.70	1,105.20	1,000.00	−105.20	−10.5%
6		A003	製品A003	350.00	607.42	108.70	1,066.11	1,100.00	33.89	3.1%
7		A004	製品A004	250.00	809.54	108.70	1,168.24	1,150.00	−18.24	−1.6%

「製品番号」は、「6.売上実績」のデータから集計しています。
（背景色が「灰色」は、マクロが計算結果をセットしているセルです）

「製品名」と「製品別材料費」は、「1.製品一覧」に入力した内容がセットされています。

「製品別原価」は、「7.製品別原価」で計算した原価を参照（VLOOKUP 関数）し、セットしています。

「販売費」は、「3. 全社費用」シートの「販売費及び一般管理費」です。
「販売費及び一般管理費」を、会社の売上数量の合計で割って算出（製品別の一単位あたりの「販売費」）していますので、得意先、製品の区別なく同じ金額になります。
但し、例えば、ある製品だけ、出荷の運送費が飛び抜けて高く、他の製品との差が大きい場合などは、その分の費用を「販売費及び一般管理費」から抜き出して、「5.直接費」に入力し、製品番号との紐づけを行なうことで、その製品にのみ費用が算入されます。

「売上原価」は、「製品別材料費」「製品別原価」「販売費」を足した値で、その製品に掛かった費用の合計になります。

「平均売上単価」は、「6.売上実績」に入力した売上単価で、この後説明する「売上額」÷「売上数量」で計算しています。（売上実績の中で、複数の売上単価（単価変更など）が存在する場合があるため、平均となります）

「利益」は、製品一単位当たり（1 個など）の利益です。「売上額」－「売上原価」となります。
計算上は、「利益額」÷「売上数量」で計算しています。

「利益率」は、売上に対する利益の率で、「利益額」÷「売上額」×100 で計算しています。

© 2017 MG's コンサルティング

■利益金額

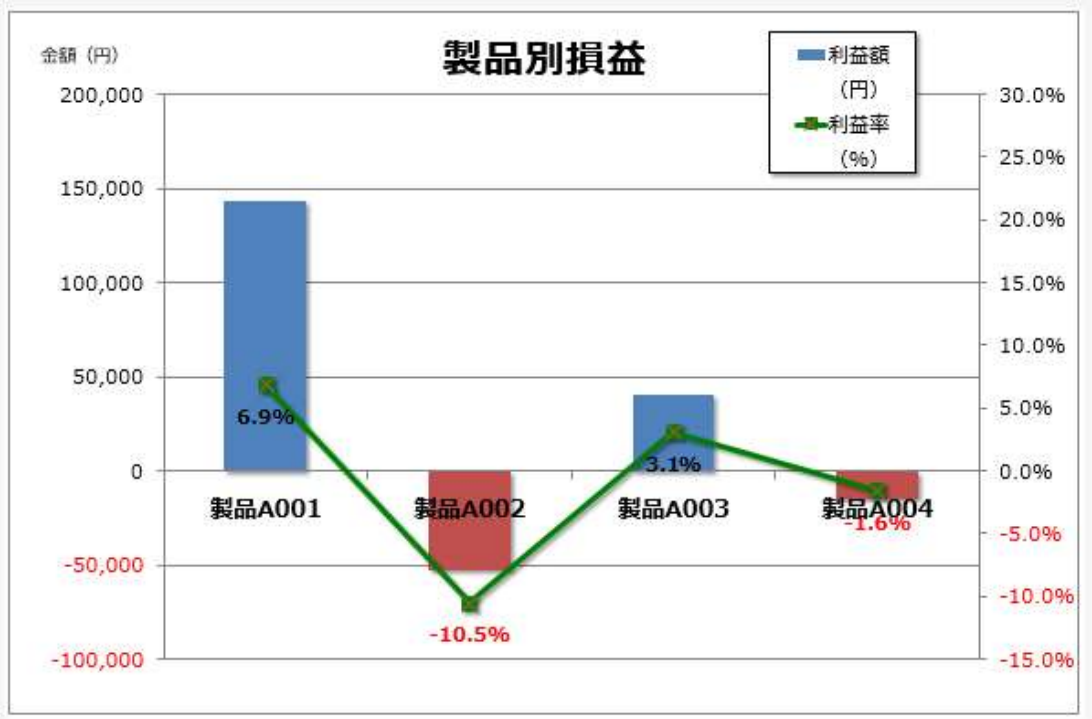
	B	C	K	L	M	N	O
1	製品別損益						
2	2022年5月度＜月間＞		4,600	4,817,000	4,700,000	117,000	2.4%
3	製品番号	製品名	売上数量（個）	売上額（円）	売上原価（円）	利益額（円）	利益率（%）
4	A001	製品A001	2,100	2,077,000	1,933,478	143,522	6.9%
5	A002	製品A002	500	500,000	552,598	-52,598	-10.5%
6	A003	製品A003	1,200	1,320,000	1,279,334	40,666	3.1%
7	A004	製品A004	800	920,000	934,590	-14,590	-1.6%

「売上数量」「売上額」は、「6.売上実績」のデータから集計しています。

「売上原価」は、「9.得意先・製品別損益」のシートから、製品毎に集計しています。

「利益額」は、「売上額」－「売上原価」、「利益率」は、「利益額」÷「売上額」×100 で計算しています。

下図のように、利益額と利益率をグラフにすると分かり易いですね。



■計算後の行数について

このシートは、最大で 500 行まで、計算の対象範囲としています。

「8.損益計算実行」のボタンをクリックして計算すると、データがセットされていない、計算対象外の行は、自動的に「非表示」となります。

※むやみに、行の追加や削除を行わないでください。正しく計算されない場合があります。

© 2017 MG's コンサルティング

11. 得意先別損益

得意先別の損益を計算します。

このシートも、「8.利益計算実行」シートにあるボタンをクリックすると、自動的に計算されます。

（得意先の情報を省略した場合は、このシートは計算されません）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	得意先別損益			最大行数: 1000					
2		2022年5月度＜月間＞		4,600	4,817,000		4,700,000	117,000	2.4%
3		得意先番号	得意先名	売上数量（個）	売上額（円）	平均売上単価（円／個）	売上原価（円）	利益額（円）	利益率（%）
4		A	株式会社AAA	1,800	1,865,000	1,036.11	1,749,513	115,487	6.2%
5		B	BBB株式会社	2,000	2,240,000	1,120.00	2,213,924	26,076	1.2%
6		C	有限会社CCC	800	712,000	890.00	736,563	-24,563	-3.4%

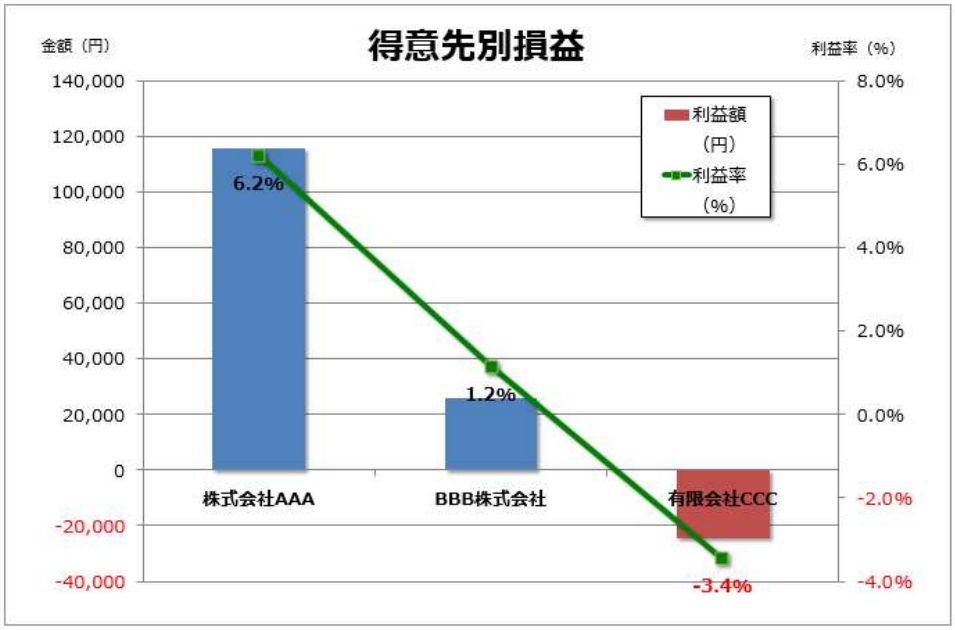
「得意先名」は、「2. 得意先一覧」シートのデータを参照しています。

「得意先番号」「売上数量」「売上額」は、「6.売上実績」のデータから集計しています。

「売上原価」は、「9.得意先・製品別損益」のシートから、得意先毎に集計しています。

「利益額」は、「売上額」－「売上原価」、「利益率」は、「利益額」÷「売上額」×100 で計算しています。

下図のように、利益額と利益率をグラフにすると分かり易いですね。



■計算後の行数について

このシートは、最大で 1000 行まで、計算の対象範囲としています。

「8.損益計算実行」のボタンをクリックして計算すると、データがセットされていない、計算対象外の行は、自動的に「非表示」となります。

※むやみに、行の追加や削除を行わないでください。正しく計算されない場合があります。

© 2017 MG's コンサルティング

＜お問い合わせ＞

宛　名　：　MG's コンサルティング

メールアドレス　：　info@accounting-it.com

ホームページ　：　https://accounting-it.com/

ホームページの「お問い合わせ」ページもご利用いただけます。
https://accounting-it.com/aboutsite

※お問合せ内容と一緒に、**メール本文に、「お名前」「メールアドレス」**をご記入ください。

※本製品はは、予告なく、改変、改良を行います。
不具合修正によるバージョンアップ版のご提供は、無償です。
機能追加によるバージョンアップ版のご提供は、原則、有償になります。
無償、有償に関わらず、旧バージョンから、新バージョンへのデータ移行は、保証いたしません。
（旧バージョンから、新バージョンへのデータ入力は、原則、ユーザ様での手作業となります）

© 2017 MG's コンサルティング